

Modern Rheumatology 投稿論文を査読する際の注意点

このたびは Modern Rheumatology (MR) 投稿論文の査読をお引き受けいただきありがとうございます。迅速、公正、的確な査読が MR の質と評価を高め、ひいてはインパクトファクターの向上につながりますので、何とぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

MR の投稿査読システムとして 2008 年に Editorial Manager[®]を導入し、概ね順調に運営されております。しかし査読に当たり Editor 側からみて時々問題が見受けられることがあるので、査読の際の注意点を挙げさせていただきます。査読の参考としていただければ幸いです。

査読の迅速性と匿名性の厳守

1. 査読は必ず期限内にお願いいたします (通常は 2 週間)。迅速な査読が論文の速やかな出版につながります。
2. 査読者になったことや査読結果の情報は著者および共著者に漏れないようにお願いします。匿名性の保障が科学論文の査読では極めて重要です。
3. 投稿論文の情報については、研究グループや大学院生を含めて、いかなる理由があっても決して他人に漏らさないようご注意ください。
4. 学術誌に投稿された論文に関する情報の漏洩は不正行為に該当する場合があります (COPE、ICMJE の recommendation を参照下さい)。

<https://publicationethics.org/resources/guidelines-new/cope-ethical-guidelines-peer-reviewers>
<http://www.icmje.org/recommendations/browse/roles-and-responsibilities/responsibilities-in-the-submission-and-peer-review-process.html>

判定とコメント記載の注意

5. コメント欄への記入はまず Word などでも下書きを行い推敲してから貼り付けることをお勧めします。時々スペルミスなどが見られます。
6. 「Comments to Author」の欄の記入は必須です。ときどき判定 (A~D) だけ行ってコメントが何も書かれていないことがあり、最終判定が困難となります。
7. 「Comments to Author」の欄では“accept”や“reject”の判定に関する記述はしないでください。これらの意見は、むしろ「Comments to Editor」欄に記載してください。Comments to Editor に記載されたコメントを著者が見ることはできません。

Revise 論文の再査読について

8. 問題点はすべて最初の査読の際に指摘すべきであり、2 回目以降の再査読で 1 回目 (前回) に指摘しなかったポイントを新たに指摘することは原則できません。ただし、改訂により新たに加わったデータや文章はもちろん査読の対象となります。

9. 論文内容の改訂を行っても **Accept** の可能性が低いと判断されれば、最初から “**Reject**” を選択してください。何度も繰り返し改訂を求めて結局 **Reject** にすることは、原則しないでください。

2022年7月

Modern Rheumatology
Editor-in-Chief
桑名 正隆